

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1) (3) (6)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 藏澄 美仁

統括責任者 役職名 管理栄養学科教授 氏名 大口 健司

課題名 管理栄養学科リカレント教育事業 (OG 向け勉強会、キャリアモデルセミナー)

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	大口 健司	生活科学部・教授	統括 (学科主任)
		三田 有紀子	生活科学部・講師	講師依頼、学生への周知等 講師依頼等
		小多 沙知	生活科学部・講師	

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業は、4 年生や卒業生から就職後のキャリア形成に不安があるとの声から着想して、卒業生にキャリアデザインを具体的にシミュレーションすることが重要であると考えられ、企画した。これは管理栄養学科 (旧食品栄養学科) を卒業した卒業生に向けてリカレント教育の一環としても実施するものである。

OG 向け勉強会では、専門職種別に講演会や交流会を実施し、研鑽を図るものである。また、キャリアモデルセミナーでは、本学を卒業後 10 年以上経過して各分野でキャリアを積んでいる卒業生を講師として依頼し、卒業生だけでなく、在学生にとっての“キャリアデザインを検討する機会”を作り、自身のキャリアの一助となるよう開催を提案した。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

これまで、本学卒業生から大学におけるキャリアに関する要望は多く聞かれてきた。専門職につきながら新人でも一人職場に着任することも多く、若手の卒業生からは勉強する機会が欲しい、同職種での知り合いを作りたいなど相談される機会が多かった。また、女性のライフスタイルは、卒業後 30～40 代にかけて結婚・妊娠・出産・子育てなどのライフイベントが多く、男性以上に大きく変化する。これらのことから、学生、卒業生が就職後のキャリアを考える上で、具体的にシミュレーションできる環境が大学のリカレント教育で補うことが必要である。また、本学科は多くの卒業生を抱えていることから多くのバリエーションを提供でき、卒業生同士の人脈作りにもつながると考えている。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

本事業は、キャリアモデルセミナーとOG向け勉強会の2本立てであるため、以下分けて報告する。

① キャリアモデルセミナー

第1・2回を2025年11月8日(土)、第3回を2025年12月13日(土)の計3回実施した。

第1回は栄養教諭の服部裕子氏(1994年度食品栄養学科卒業生)に依頼した。服部氏は大学卒業後、学校栄養職員として勤務し、その後栄養教諭免許を取得された。愛知県栄養教諭研究協議会役員副会長・会長を歴任し、現在は栄養教諭として働きながら学校給食センターの立ち上げなどにもかかわっている。今回は「学校栄養職員から栄養教諭へー栄養の先生を目指してー」をテーマにお話いただいた。参加者は15名であり、その内卒業生は1名であった。

第2回は公認スポーツ栄養士の小笠原真智氏(2014年度管理栄養学科卒業生)に依頼した。小笠原氏は大学卒業後委託給食会社に就職し、その後フリーランスとして独立。その後公認スポーツ栄養士に登録され、スポーツチームのサポートやオンラインでの栄養セミナーなどを実施している。テーマは「フリーランスのスポーツ栄養士という働き方ー子育てとの両立と未来のビジョンー」としてご講演していただいた。参加者は22名であり、卒業生はその内5名であった。

第3回はフリーランスで活躍されている鈴木明氏(2008年度管理栄養学科卒業生)に講演いただいた。鈴木氏は、大学卒業後岡崎市に就職し、退職後は自分の得意×好き×社会課題で様々な食育体験等事業を展開されており、「食と農でひろがるフリーランス栄養士の道」をテーマにお話いただいた。参加者は15名であり、内卒業生は4名が参加した。

② リカレントセミナー(OG向け勉強会)「管理栄養士のための勉強会」

今回は1人職場で悩んでいる卒業生が多いことから、「1人職場の困りごと、どうしていますか?」をサブタイトルに据えて岡崎医療刑務所技官である黒柳桂子氏に「ひとりだからこそその魅力的な働き方」をテーマにお話いただき、その後意見交換会を実施した。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①管理栄養士	②栄養士	③キャリアデザイン	④女性
⑤ライフスタイル	⑥リカレント教育	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数(外部・内部)についても明記すること。)

今回本事業の達成としては、参加者の満足度を考えると価値ある機会を提供できたと考えられる。いずれの事業においても、各回それぞれ個性あふれる内容であり、学生、卒業生ともにキャリア形成を考える機会となり、質疑応答の時間では時間を大幅に超えて多くの質問が出された。また、それぞれの先生から個別での質問にも対応いただき、貴重な機会が得られたと考えている。

しかしながら、在学生、卒業生ともに出席するものが少なく、学科内の協力も得られにくいところがあった。来年度は一部を3年生の専門演習や4年生のゼミ活動の一環として加えるのも一つの案であり、卒業生を巻き込む機会としてSugiyama Connectや同窓会などの協力を得ることも考える必要がある。

このような機会は非常に貴重であり、管理栄養士養成課程を持つ近隣大学と比較して人材が豊富であることから、本学科をPRする材料になるようある程度継続することを念頭に取り組むことも考慮してよいと思う。他学部他学科との協同事業も視野に今後検討していく。